

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK18087
神機構-82
神機構-734

③ 施設名等

名称：	城山学園
施設長氏名：	遠藤 浩
定員：	45名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1967/7/21
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人城山学園
職員数 常勤職員：	30名
職員数 非常勤職員：	4名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員、保育士
上記有資格職員の人数：	22名
有資格職員の名称（イ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	職業指導員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	7ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室、会議室、彩りルーム（学習室）、医務静養室、宿直室
施設設備の概要（ウ）：	宿泊室、パレットホール（地域交流スペース）、厨房、にじ
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<p><学園の理念> 養育の知見に基づき、子どもの存在そのものを受けとめ、子どもの人権を守り、子どもと向き合い、生活を共にしながら『自己を大切にし』『他者を大切にできる』人として育むこと。</p>

⑤ 施設の特徴的な取組

<p>① 職員の働きやすい環境作り 職員の働きやすい環境整備として、特別休暇を増やし、4週8休を年6回は9休となるようにしている。また、全員の基本給をアップして雇用条件を改善し、勤務体系も断続勤務から、早出、遅出を入れた交替勤務に変更し、職員が負担なく働くことができる環境を整えている。</p> <p>② 人材の育成 昨年度より、スーパーバイザー（対人援助職の教育の指導者）を置き、全職員参加の「伝える場」を中心に内部研修を実施している。「伝える場」はこれまでテーマを決めて開催してきたが、現在は、「若者の自殺」や「孤立」などのDVD、図書を参考にしグループで話し合い、自分たちでテーマを決めて発表する形に発展させている。全体のコーディネートをスーパーバイザーが担い、毎月、活発に活動している。</p> <p>③ 園内行事の充実 今年度はコロナ禍で予定していた園外行事や招待行事などが中止になったため、職員間で検討し、ホーム対抗の長縄大会やホーム対抗の食事作り、バーベキュー大会、仮装大会、旧園舎跡地でのキャンプなどを行っている。園内活動を工夫して活発に行うことで、子どもたちは精神的にもとても落ちついて生活を送っている。</p>
--

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/6/25
-------------------	-----------

評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/2/16
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

○昭和42年開設の歴史のある園で、自然に恵まれた環境の下、子どもたちは7つのホームに分かれて生活を送っている。子どもたちは、エネルギーの高い中・高生が多く、複雑な問題を抱えた子ども一人ひとりに、職員全体が真摯に向き合い、子どもたちに「自分の居場所」と思ってもらえるよう、職員との信頼関係作りにも努めている。

○社会福祉充実計画を踏まえ、単年度の事業計画を策定している。事業計画書には、その年度の重点的課題を載せ、今年度の事業計画書には、1. 職員の獲得と休暇日の増加、2. 社会福祉充実計画に基づく園内整備、3. 人材育成をあげている。

○職員は人権チェックリストを基に、年3回、自己の振り返りを行い、施設長や主任、副主任、スーパーバイザーとの面接を行っている。また、職員一人ひとりが、「個人計画シート」を用いて「個人目標」を立てている。「個人目標」は年間の目標の他に、月間の目標も立て、職員はブロック会議などで、月間目標を発表している。

○子どもたちとは直接、個別面談を行い、生活の状況を確認し、意見や希望を聴いている。また、園内に意見箱を設置している。奇数月には、年齢別の「小学生会」や「中高生会」を、偶数月には「全体協議会」を開き、子どもたちの話し合いや勉強の場としている。子どもたちにはアンケートも実施し、いろいろな方法で聴き取りを行い、意見や希望を改善につなげるようにしている。

○食事は、お腹を満たすだけでなく、食事をしながらコミュニケーションをとり、楽しく食べることを目的としている。平日はホームでご飯を炊き、ホーム内で話し合いながら食べているが、学校が休みの昼食は、大食堂（パレットホール）に全員が集まり、皆で楽しく食事をしている。また、月2回、自分たちで献立を考え、買い物から調理、片付けまでを各ホームで楽しみつつ、学びの機会としている。

○地域のこども会の活動に、子どもたちと職員が参加している。子ども会には職員が役員としても参加している。地域のサッカーやバスケットボール、バレーボール、ダンスのクラブに入っている子どももいる。小・中学校のPTA役員を職員が担い、運動会開催時などには交通整理や、ボランティア活動なども行っている。また、里親支援専門相談員を配置し、里親の新規開拓や里親の研修会、懇談会などに携わっている。

○中高生の子ども会議では、職業指導員が中心になり、退園後の生活を考えることの重要性や生活の方法、金銭管理など、退園後の生活の具体的な部分に触れて支援している。職業指導員活動計画に卒園児支援活動（アフターケア）をあげ、卒園児の追跡調査と把握、エールパック（卒園後の不安を聴き取り、離職や中退などのリスクを軽減する活動）の実施している。

○学園の方針として、園全体での性教育カリキュラムは組んでいない。性暴力を受けて入園してきた子どもや、様々な経験をして入園してきた子どもが多い中、年代別、性別でまとめた性教育はできないと考えている。子ども一人ひとりがどんな経験してきたのか、職員はその辛さを受け止めながら、子ども一人ひとりに合った関わりを持ち、対応している。

○臨床心理士が週2回来園して、子どもと面接している。ボールやごっこ遊びなどのおもちゃを使ったプレイルームや、箱庭療法のルーム、面接のルームを使い、それぞれの子どもにあった療法を行っている。入園2～3ヶ月後にバウムテスト（1本の実がなる木を書く心理検査）を実施し、子どもの様子を把握している。

○家庭支援専門相談員は、主任が兼務している。家族との関わりを大切にして、園の行事や学校の行事は、年度初めに保護者に知らせている。また、面会や外出、宿泊など、児童相談所のケースワーカーと連携しながら関係づくりを行っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今年度は新型コロナ感染拡大により、多くのご不便がある中受審させていただき、ありがとうございます。丁寧な聞き取りのもと、結果に反映していただいていると感じています。

内容としては、前半部分にb評価が目立ちました。児童養護施設の在り方にも変化を求められ始めている中、社会に向けて、地域に向けて、どのような施設づくりをしていくのか模索し続けていきます。

また、人材の確保と育成については、ご指摘の通り行き届いていない部分です。研修計画の作成を進め、個々人の意識と力量の底上げを目指していきたいと考えています。

今回の受審を通し、施設に今何が求められているのかを改めて認識し、改善に向け努めてまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○

	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

学園の理念は、事業計画書や就業規則に明記して、職員に周知している。事業計画は年度当初の職員会議で、施設長や主任、副主任より、内容を職員に説明している。子どもたちには、子ども用のパンフレットを作成し、小学生、中高生別の「子ども会議」の場でわかりやすく説明している。保護者には、今年度は新型コロナウイルスの影響で開催を中止したが、例年は9月23日の学園のバザー時に保護者会を開催し、事業計画の簡易版を用いて、内容を説明している。

2 経営状況の把握

(1)	経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
①	<p>2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	b
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

社会福祉事業全体の動向を把握するため、県の児童福祉施設施設長会や、地域の要保護児童対策地域協議会に施設長が参加している。入手した情報は、資料を閲覧したり、内容によっては職員会議の場などで説明し、職員全体で共有するようにしている。また、近隣の児童養護施設が集まる連絡会にも施設長が参加して、情報を収集するようにしている。

②	<p>3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

社会福祉充実計画を策定し、5ヶ年の具体的な取り組み課題をあげている。職員の確保に課題があり、子どもの人数が暫定定員にならないよう、受け入れの状況を確認するとともに、専門職の加算も適確に行うようにしている。職員の人数を増やし、休日を増やすよう努めている。職員の育成を強化するため、昨年度より、非常勤ではあるが、スーパーバイザー(対人援助職の教育の指導者)を配置して、職員の教育体制を整備している。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
--	--	---

【コメント】

社会福祉充実計画を策定し、5ヶ年の具体的な取り組み課題をあげている。計画は園内の整備が中心であるため、国の新しい社会的養育ビジョンを確認しながら、現在、抽象的なものを具体的に詰めていく予定である。施設やグループホーム、里親の今後の動向を確認しながら、各ホームの子どもたちの生活の改善を進めていく予定である。現在、地域小規模児童養護施設1ヶ所の運営を休止している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

社会福祉充実計画を踏まえ、単年度の事業計画を策定している。事業計画書には、その年度の重点的課題を載せ、今年度の事業計画書には、1. 職員の獲得と休暇日の増加、2. 社会福祉充実計画に基づく園内整備、3. 人材育成をあげている。人材の育成に関しては、園外研修よりも園内研修の充実が大切と捉え、園内でのスーパービジョン(事例検討)を毎月開催し、職員の資質向上を目指している。また、これまでも実施してきた園内研修「伝える場」をさらに充実させていくこととしている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

毎年、年度末に実施状況の振り返りを行い、施設長や主任事務員、主任、副主任、専門職が役割を分担して、次の事業計画を策定している。各自が作成した計画は、運営会議の場で集約し、理事会に諮っている。策定した事業計画は、年度当初の職員会議で、施設長や主任、副主任から全体に説明している。今年度の重点課題についても、職員に周知している。実施状況の振り返りは、年度途中では行っていない。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画書を作成する際には、同時に簡易版も作成し、年1回開催する保護者会では、簡易版を配布して説明している。園内行事は、毎年、同じ月日で固定して計画し、保護者が参加の予定を立てやすいように配慮している。子どもたちには、その時々、必要に応じて伝えている。行事などの予定は、各ホームのカレンダーに記入し、子どもたちに周知している。今年度はコロナ禍で予定していた園外行事や招待行事などが中止になったため、職員間で検討し、ホーム対抗の長縄大会やホーム対抗の食事作り、バーベキュー大会、仮装大会、旧園舎跡地でのキャンプなどを行い、子どもたちからは大変好評であった。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

ブロック会議や事例検討会、生活改善委員会の活動などを通して、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。生活改善委員会などは、スーパーバイザーの提案により、支援方法の答えを出す場ではなく、いろいろな声を聴く場としている。職員は人権チェックリストを基に、年3回、自己の振り返りを行い、施設長や主任、副主任、スーパーバイザーとの面接を行っている。チェックに年3回取り組むことで、タイムリーに最近のことを振り返る機会としている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

人権チェックリストの結果は、集約して、職員に返している。チェックリストからは、子どもたちにはわかりやすい言葉を使うこと、子どもたち一人ひとりに合った学習課題を提供することなどがあがっている。現在、小学生全員に公文式学習を行っているが、中学生でも必要な子どもがいると考えている。第三者評価や指導監査などの結果で気になることは、朝の打ち合わせの場で、その日の出勤職員に伝えている。職員の対応で気になるものは、ヒヤリハット報告として、職員に投げかけている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割と責任については、事業計画書に「職務内容」を記載して、職員に周知している。また、施設長不在時の権限委任などについては、「防災マニュアル」に記載している。委員会の集り以外は、朝の打ち合わせを含め、会議にはできるだけ参加して、状況を把握している。職員会議では、冒頭に「施設長の話」の時間を設け、これまでの経験を踏まえた話を職員に伝えている。園内行事やキャンプなどにも参加する他、学校の運動会や入・卒園式にも、施設長が積極的に出掛けている。普段から、子どもたちと接触する時間を多く作っている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

県の児童福祉施設施設長会や、地域の要保護児童対策地域協議会に施設長が参加し、遵守すべき法令などを正しく理解するよう取り組んでいる。入手した情報は、職員会議の場などで説明し、職員全体で共有するようにしている。施設長からの話は、法令の内容も、歴史的な背景から触れることが多く、職員の人権教育のひとつとなっている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

【コメント】

社会的養育推進委員会により、新しい養育ビジョンのための養育を考え、現場にどう浸透させ、どう実践し、何を改善したらよいか検討している。毎月、テーマを決めて、園内研修「伝える場」を開催してきたが、現在は、「若者の自殺」や「孤立」などのDVD、図書を参考にしてグループで話し合い、自分たちでテーマを決めて発表する形に発展させている。全体のコーディネートを超パイザーが担い、職員の力量を高めるため、施設長は進行をなるべく見守るようにしている。養育・支援の質の向上に、園全体で取り組んでいる。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設（法人）の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

職員の働きやすい環境整備として、特別休暇を増やし、4週8休を年6回は9休となるようにしている。また、全員の基本給をアップして雇用条件を改善し、勤務体系も断続勤務から、早出、遅出を入れた交替勤務に変更し、職員が負担なく働くことができる環境を整えている。休みの前日は早出、休みの次の日は遅出にするなどの配慮も行っている。求人サイトも活用し、職員の中途採用も積極的に行っている。園の周囲は豊かな自然に恵まれているが、その良し悪しの判断は人によって様々であり、職員採用の難しさを感じている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通)	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

新人職員の採用時には、先輩の職員が1ヶ月間ペアを組み、スムーズに仕事を覚えることができるよう配慮している。前半の2週間は先輩職員と一緒に動き、後半の2週間は先輩職員が見守って勤務についている。また、新人職員は基本的なマナーや仕事の理解度を確認するため、冊子「はじめの一步!」を用いて、ひとつひとつの項目をチェックしている。職員は「個人目標」を立てて、年3回、個人面接を行っている。1回目はスーパーバイザーと、2回目は主任、副主任と、3回目は施設長と面接している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

期待する職員像は、特に文書で示していないが、人権を意識し、生活臨床ができる職員であってほしいと思っている。子どもたちの養育・支援は、子どもによって関わり方が異なっている。職務に対する評価は、基準を決めることがとても難しく、課題も多いことから、人事考課などは取り入れていない。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

職員の働きやすい環境整備として、特別休暇を増やし、4週8休を年6回は9休となるようにしている。また、全員の基本給をアップして雇用条件を改善し、勤務体系も断続勤務から、早出、遅出を入れた交替勤務に変更し、職員が負担なく働くことができる環境を整えている。休みの前日は早出、休みの次の日は遅出にするなどの配慮も行っている。有給休暇も、繰り越しにならないよう、主任が取得状況を把握している。勤務表作成時にも、職員の休みの希望日を聞いている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

職員一人ひとりが、「個人計画シート」を用いて「個人目標」を立てている。「個人目標」は具体的な目標となるよう本人が決めているが、アドバイスをすることもある。年間の目標の他に、月間の目標も立て、職員はブロック会議などで、月間目標を発表している。また、年3回、職員の個人面接の時間を確保している。1回目はスーパーバイザーと、2回目は主任、副主任と、3回目は施設長と面接している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

学園の理念や方針に沿った研修計画については、現在作成中で、具体的な計画までには至っていない。研修委員会が中心になり、外部研修の割り振りなどの検討や、内部研修の企画を立てている。外部研修は、階層別に必要な研修に参加できるようにしているが、今年度はコロナ禍で、ほとんどの外部研修が中止になっている。外部研修参加後は、職員会議の場で研修報告を行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
(5種別共通)		
<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○	

【コメント】

例年、外部研修には、月に数名が参加している。昨年度より、スーパーバイザーを置き、全職員参加の「伝える場」を中心に内部研修を実施している。「伝える場」はこれまでテーマを決めて開催してきたが、現在は、「若者の自殺」や「孤立」などのDVD、図書を参考にしてグループで話し合い、自分たちでテーマを決めて発表する形に発展させている。全体のコーディネートはスーパーバイザーが担い、毎月、活発に活動している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

副主任を担当者として、毎年、実習生の受け入れを行っている。実習受け入れの前にはオリエンテーションを実施し、日々の反省会も個別に対応している。評価は、ホームの担当者が付けている。現在、20校ほどの実習を受け入れており、宿泊での実習になるため、月に4人までとしている。実習生の声は、職員にとっても日々の支援のあり方を振り返る機会につながるため、今後も積極的に実習生を受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページの活用や、広報誌の発行、見学の受け入れなどで、運営の透明性を確保している。ホームページの管理は、担当者を決めて対応している。広報誌「しろやま通信」は年2回、700部ほど発行し、保護者や児童相談所、学校、町内会、関係機関、卒園生、民生委員児童委員などに広く配布している。卒園生の集り「城山会」を年1回開催している。子どもたちは、卒園生の声をよく聴いている。その他、町内外の民生委員児童委員の見学も受け入れている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

会計顧問として、外部の会計事務所に相談できる体制を整えている。また、顧問弁護士にも相談できる体制を整えている。地域の中の学園として、理事や評議員には地域の方や卒園生に入ってもらい、適正な経営・運営となるよう努めている。内部及び外部からくる書類も、1人で目を通すのではなく、必ず複数の目でダブルチェックし、全体で把握するようにしている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>a</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p>
【コメント】	
<p>地域のこども会の活動に、子どもたちと職員が参加している。子ども会には職員が役員としても参加している。地域のサッカーやバスケットボール、バレーボール、ダンスのクラブに入っている子どももいる。小・中学校のPTA役員を職員が担い、運動会開催時などには交通整理や、ボランティア活動なども行っている。小学校までの通学は30分ほどかかるため、毎朝、登校時に職員が付き添い、地域の方々に挨拶をしたりして、コミュニケーションを深めている。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p>
【コメント】	
<p>副主任を受け入れ担当とし、ボランティアを積極的に受け入れている。現在、中学生の英語や数学、発達に問題を抱える小学校低学年の子どもの学習、公文学習の手伝いなど、学習ボランティアの方が3～4名、お花のボランティアの方が1名、定期的に活動している。また、不定期だが、お祭りなどの行事の手伝い、遊びのボランティアの活動がある。年1回、「ボランティア感謝会」を開催し、子どもたちから日頃の活動のお礼をしている。ボランティアから見た子どもの成長の様子も、職員が確認している。</p>	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>a</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p>
【コメント】	

児童相談所とは、年1回全体会を開催する他、必要に応じて適宜カンファレンスを行うなど連携を密に取っている。近隣の児童養護施設やクラブチーム、小・中学校との関係機関とも連携している。小・中学校とは年1回、定期的に連絡会を開催し、授業参観や個人面談に職員が参加し、家庭訪問にも対応している。里親支援専門相談員を配置し、里親の新規開拓や里親の研修会、懇談会などに携わっている。近隣の2市8町の里親の連絡会では、園の車を提供するなどして協力している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域の要保護児童対策地域協議会に施設長が参加して、地域のニーズなどの把握に努めている。地域の子どもの居場所作りや一時預かりなど、地域の社会福祉協議会と一緒に、地域貢献事業を計画中である。有事(事故、災害など)の際には、園の機能を地域に開放し、一時的な避難場所としての活用を検討している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域のお祭りや子ども会の行事開催時には、園の車両や物品の貸し出しを行い、地域の活動に協力している。地域の子どもの居場所作りや一時預かりなど、地域の社会福祉協議会と一緒に、地域貢献事業を計画中である。子どもの居場所作りとして「子ども食堂」を作ること、一時預かりはグループホームを拠点にすることとしている。有事の際には、園の機能を地域に開放し、一時的な避難場所としての活用を検討している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

年度初めの職員会議で、全国児童養護施設協議会の倫理綱領の読み合わせを行うとともに、中途採用の職員も、採用時に同様の読み合わせを行って、共通の理解ができるよう努めている。学園の理念も事業計画書に掲載し、職員会議などで共有している。職員会議やブロック会議を月2回開催し、人権チェックリストを基にした個人面接を複数回実施し、人権について職員間で共通認識が持てるよう取り組んでいる。学園の基本方針や養育・支援のあり方などについて、職員会議などで施設長が職員に話している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

プライバシーの保護の規程を整備し、研修会などで内容を確認している。子どもたちの部屋への入室は必要最低限とし、子どもたちの私物も異性の職員は対応しないようにしている。保護者に対しても、保護者会の場などで、子どものプライバシーの保護について説明している。携帯電話を所持している高校生には、園内では写真を撮らないよう指導し、こどもたちのプライバシーの保護に努めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

入園予定の子どもや保護者向けの資料を用意し、見学などに対応している。園のしおりは、小さな子どもにもわかりやすいように、キャラクターを使い、絵や図で今後の生活が理解できるようにしている。事前に見学ができない保護者に対しては、児童相談所を通じて、利用に際し不安がないよう説明する体制を整えている。パンフレットも写真を多く使用して、わかりやすくしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

入園前は、子どもや保護者の状況に配慮して、面談を行っている。また、児童相談所と連携を取りながら、訪問が困難な保護者に対しては、児童相談所を通じて、利用に際し不安がないよう説明する体制を整えている。子どもたちとは直接面接し、養育・支援の内容を説明して理解を得るようにしている。子どもたちには、園での生活の約束事を記載した「やくそくくん、ルールちゃん」を用いて、わかりやすく説明している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>

施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

【コメント】

措置変更や地域・家庭への移行は、保護者の意向を確認しながら対応している。家庭への復帰は、外出や外泊を行い、段階的に取り組むことにしている。退園後も極力面談を行うようにしているが、面談が困難な場合は、児童相談所を通し状況を確認するようにしている。養育・支援の変更は、児童相談所や変更先の施設の意向が最優先と考えている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもたちとは直接、個別面談を行い、生活の状況を確認し、意見や希望を聴いている。また、園内に意見箱を設置している。奇数月には、年齢別の「小学生会」や「中高生会」を、偶数月には「全体協議会」を開き、子どもたちの話し合いや勉強の場としている。子どもたちの集りの場では意見が言えない時は、個別に話を聴くようにしている。子どもたちにはアンケートも実施し、いろいろな方法で聴き取りを行い、意見や希望を改善につなげるようにしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

意見箱はプライバシーに配慮して、子どもたちの目に触れにくい、目立たない場所に設置しているが、利用頻度は高く、「～がしたい」などの意見が多い。直接、話をする場合は、子どもたちが話しやすい、相談しやすい職員を自由に選択することができるよう配慮している。内容は職員会議で共有している。苦情の対応は、主任と副主任、施設長としているが、必要な場合は、第三者委員を選ぶことができる体制を整えている。子どもからの苦情は、子どもたちが参加する「全体協議会」で取り上げ、改善につなげている。苦情の内容及び対応については、ホームページで公表している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちからは、直接の相談や個別の面接、アンケート、意見箱など、いろいろな方法で意見を収集している。相談などのルールは、「学園のしおり」に記載し、子どもたち全員に配布している。年1回の保護者会は、保護者が参加しやすいよう、園のイベント開催時に行っている。子どもとの面接、相談は、個別のスペースで、他の子どもにはわからないよう配慮している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

意見箱は週1回収し、投函された内容は、ブロック会議や職員会議の場で取り上げている。子どもからの直接の相談は、個別のスペースで対応し、相談する職員を子どもが選ぶことができるようにしている。こどもたちの意見や希望については、迅速に対応するようにしているが、時間が必要なものもある。その場合は、その旨を子どもたちに説明している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネージャーは特に置いてはいないが、主任と副主任がその役割を担っている。事故防止策として、全職員を対象にして内部研修を開催する他、例年、救急法やAEDの使用方法などの外部研修に職員を派遣している。外部講師を招いての内部研修では、河川でのキャンプや川遊びでの危険、外出時の対応などを取り上げている。ヒヤリハットの報告をブロック会議や職員会議で取り上げ、年度末には総括し、事故防止につなげている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

調理担当者を外部研修に派遣し、感染症予防対策の園内研修を開催している。インフルエンザやノロウイルスの対策については、手洗いやうがいの励行、消毒液の散布などを行っている。今回の新型コロナウイルス対策では、食堂の利用方法を工夫して「密」を避けるよう対応し、子どもたちの通学時には感染予防対策としてマスクを着用し、混雑する場所への外出の一部規制などを行っている。新型コロナウイルス対策は、病院や県の指導に従って対応している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

避難訓練を月1回実施している。子どもたちは消火訓練も体験している。避難は、中・高生が主体となって動くことができるよう、日常から体制を整えている。また、通学先の学校とも、連絡方法を確認するなど、連携を取っている。災害用の備蓄品も保管庫に収納している。訪問調査時、建物内に危険物は見られず、避難路も確保されていることを確認した。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

養育・支援についての標準的な実施方法については、子どもたちの個性を尊重し、あえて文書化はしていないが、子どもたちとの関係性を重視し、園の方針に基づき、一人ひとりの個性を大切にされた養育・支援を実践している。子どもたちには、「小学生会」や「中高生会」で関わり方を示し、職員には月2回開催するブロック会議や職員会議の場で、学園の方針、施設長の考え方を浸透するように努めている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、定期的に見直しを行っている。子どもに新たな課題が発生した時は迅速に対応し、定時及び随時、内容を検討している。児童相談所とも連携し、子どもへの関わり方の見直しを行っている。子どもの特性、個性に配慮しながら、担当者が養育・支援の見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、年度初めに見直しを行っている。個別支援計画は担当が原案を作成し、施設長や主任、副主任の確認を得てまとめている。里親支援専門相談員や職業指導員の意見も聴き、計画の作成、修正を行い、ブロック会議や職員会議などで全体に周知している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、年度初めに見直しを行っている。個別支援計画は担当が原案を作成し、施設長や主任、副主任の確認を得てまとめている。里親支援専門相談員や職業指導員の意見も聴き、計画の作成、修正を行い、ブロック会議や職員会議などで全体に周知している。子どもたちの進路や学校内の問題などを踏まえ、計画の評価、見直しを行っている。子どもの家庭復帰などについては、児童相談所や学校などと連携し、計画の見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもたちの支援記録は、自立支援サポートシステムを活用し、統一した書式を使用している。職員へは年度初めに記録のあり方や記録方法、情報伝達のあり方を指導している。職員には記録の方法を伝えるだけでなく、職員間のコミュニケーションの大切さを伝え、情報共有の一環として適切な記録の作成があることを話している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

記録の管理は、就業規則にも記載し、個人情報の取り扱いや記録の保管方法を、全職員に周知している。日々の記録は、子どもたちの見えないところで記入することとし、プライバシーの保護に留意している。パソコン上での記録類の保管は、パスワードを用いて、厳重に管理するように努めている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護は、理念や就業規則に明文化し、年度初めの職員会議で施設長から職員に説明している。月2回開催する職員会議でも適宜説明して、職員は児童養護施設の大きな役割であることを認識している。職員は年3回、チェックリストにより、日々の支援を振り返っている。チェックリストは集計し、職員会議で話し合いを行っている。また、権利侵害の防止に向け、感情的な言葉を使ってしまったなど、ヒヤリハット用紙を活用して取り上げている。園はキリスト教の精神に基づき運営し、以前は牧師が来て夕礼を行っていたが、子どもから宗教の自由の意見が上がり、今は行っていない。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

入園時、児童相談所のケースワーカーが権利について説明し、子どもたちに「権利ノート」を手渡している。「権利ノート」は自分で持っている子どももいるが、失くしてしまうので職員が保管している子どももいる。子どもたちは、小学生、中高生別に、子ども会議と全体の子ども協議会を交互に毎月行っている。子どもたちの生活は、冊子「やくそくくん、ルールちゃん」に、自分たちで決めたことを文書化している。内容に変更が必要な時は、子どもたちが話し合って修正している。知的障害や発達障害により特別支援学級や特別支援学校に通学している子どもがいるが、子どもたちは自然に受け止め、一緒に生活している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもとともに生き立ちを振り返ることは、子どもの心理状態を見据えたうえで、タイミングが大事と認識している。子どもが自分の生き立ちを受け入れる状況になった時に、児童相談所のケースワーカーや担当者、時には保護者を交えて、話し合いを行っている。子どもが昔のことを知りたい気持ちになった時は、昔住んでいた家の写真を撮りに行ったり、措置変更の子どもの場合は、以前の施設の話の聴きながら、生き立ちを振り返り、自分を見つめ直すことができるよう支援している。職員と信頼関係を築きながら、沢山の経験をして、写真に収め、大切な思い出となるようにしている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 「体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつくられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自身が訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は、不適切なかかわりの防止を常に意識をしながら、日々の支援を実践している。年3回、各自チェックリストにより自分の支援を振り返り、全体を集計して会議の中で話し合いを行っている。不適切なかかわりを感じた時は、ヒヤリハット用紙に記入し、どのような対応がよかったか、話し合う機会を設けている。子どもたちに年2回、ヒアリングを行い、1回は直接普段関わりのない主任・副主任が、いやなことをされていないかなど、10項目を聴きとっている。2回目はアンケートを行い、子ども自身に記入してもらっている。子どもからの訴えからも、不適切なかかわりの早期発見に努めている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

一人ひとりの子どもに、担当の職員が深く関わるようにしている。園の生活に安心感を持ち、快適な生活を送ることができるように、小学生、中高生別の子ども会議や、全体の子どもの協議会を開き、生活の中の問題点や、休みの日は何をしたいかなどを話し合っている。各年齢により門限が決まっているが、中学生から友だちと出かけるので帰りが少し遅くなるなど話があった時は、柔軟に対応している。小遣いは年齢により決まっているが、小学校高学年からは自分で管理している。職員は計画的な使い方ができるよう支援している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	a
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り継続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所の一時保護からの入園が多いので、児童相談所に面接に行き、本人の様子を確認しながら、子どもの不安を軽減できるように対応している。可能であれば、入園時には保護者にも来てもらい、保護者と園とのつながりがあることを子どもに感じてもらい、安心して入園できるようにしている。年少の子どもには、担当が寄り添い、夜間は添い寝をして、安心感が得られるように支援している。措置変更の場合は、前施設または変更施設と連携をとりながら、不安感を抱く子どもを理解し、子どもが安心して生活を継続できるよう対応している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

中高生の子どもの会議では、職業指導員が中心になり、退園後の生活を考えることの重要性や生活の方法、金銭管理など、退園後の生活の具体的な部分に触れて支援している。職業指導員が職業適性検査を実施し、本人の希望と照らし合わせ、子どもと話し合いながら就職に結び付けている。卒園近くには、園内の多目的室を使い、一人暮らし体験や、町の労働組合のおためし体験などを体験している。職業指導員活動計画に卒園児支援活動(アフターケア)をあげ、卒園児の追跡調査と把握、エールパック(卒園後の不安を聴き取り、離職や中退などのリスクを軽減する活動)の実施、宿舎利用児童の対応などを行っている。定期的に、元担当者と職業指導員が連絡を取り、卒園児の状況を把握し、年1回、卒園児の同窓会を開催している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

第三者
評価結果

①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

子どもたちにアンケートを実施して、感じていることや、思っていることを記入してもらっている。アンケートの項目には、「話したい職員」の記入欄があり、希望する子どもには、時間を設け、子どもの悩みなどを聴いている。意見箱を設置し、子どもたちは自分の意見を自由に投函している。子どもの感情をどう受け止めていくかなど、事例検討の研修会も定期的に関催している。また、DVDや参考図書を活用して、感想を話し合い、重い課題を負った子どもたちを理解し、受け止めていく努力を職員全体で行っている。園の理念である「子どもの存在そのものを受けとめる」ことに努めている。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

食事は、ただお腹を満たすのではなく、楽しく、コミュニケーションをとりながら、人間関係を構築する場として捉えている。休日の夕食は大食堂（パレットホール）で全員で楽しく食べ、平日の朝夕は、各ホームで楽しく摂取している。夜間は全ホームに宿直職員を置くことができず、7ホームに3人の体制で対応している。現在、幼児は1人だけなので、すぐに対応している。定時見回り以外の時間に、おねしょをしてしまったなど、何かあれば他の子どもから内線電話をもらい対応している。おねしょ後の着替えやシャワー、布団の後始末などを行い、子どもが寝付くまで傍に寄り添うようにしている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが失敗をすることも、生活上では大切と考えている。日々の生活の中での失敗は、子どもたちが自分で解決していくよう見守っている。人間関係がうまくいかず、アルバイト先で「なにを習ってきたんだ」など叱られ、園に連絡があった時には、職員がアルバイト先に謝りに行くこともある。子どもと話し合いをして、「でも、頑張ってみる」と本人が希望して、アルバイトを継続している場合もあり、どこまで見守るのか、判断に悩むこともある。盗むことが止められなくて、アルバイトを辞めた子どももいるが、基本的には、子どもを信頼し、見守っていく姿勢を大切にしている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

年齢に応じた、本や玩具を揃えている。外遊びが自由にできる環境に恵まれ、普段から自転車やスケートボード、ボール遊びなどを行っている。子どもたちからの希望で、バスケットボールのゴールも設置している。コロナ禍で学校が休みの時には、近くの竹を刈って流しソーメンを行ったり、大縄大会やバーベキュー大会、仮装大会などを考え、子どもたちが楽しむことができるよう工夫している。毎日の基本的な学習は、全員が公文式学習を各ホームで行っている。また、元教員のボランティアの方の協力で、学習指導を受けている。高校受験のため、塾に通っている子どももいる。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

冊子「やくそくくん、ルールちゃん」で、園で守るべきルールを子ども会議で話し合い、日々の生活の習慣となるよう働きかけている。日々の生活の中で、ホームの職員が子どもと一緒にご飯を炊き、洗濯し、掃除をするなど、年齢や発達に応じて、生活技術を習得できるようにしている。健康面の管理も、子どもたち自らが毎日検温を行っている。入園前は人に甘える経験がなかった子どもが多く、人に甘えることができるようになり、何かあった時はSOSをうまく出せる子どもになってほしいと思っている。自分の子どもを育てた経験がない若い職員が多いため、専門職として子どもに接してはいるが、子どもたちが通う学校の友だちの母親から学ぶことも多い。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですり食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○

<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事は、お腹を満たすだけでなく、食事をしながらコミュニケーションをとり、楽しく食べることを目的としている。栄養士が献立をたて、厨房で調理している。平日はホームでご飯を炊き、ホーム内で話し合いながら食べているが、学校が休みの昼食は、大食堂（パレットホール）に全員が集まり、皆で楽しく食事をしている。毎朝30食分のお弁当を厨房で作り、学校に持っていつている。また、子どもたちが食事作りができるよう、月2回、自分たちで献立を考え、買い物から調理、片付けまでを各ホームで楽しみつつ、学びの機会としている。他に2回は、レシピ通りに作る体験もしている。子どもたちからアンケートをとり、献立に反映している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎日の身だしなみは、子ども同士で気をつけたり、小さい子どもは職員が関わるようにしている。子どもが成長して着ることができなくなった衣類は、小さい子どもに着てもらっている。担当職員と一緒に好きな洋服を購入し、ショッピングは職員とコミュニケーションを楽しむ時間となっている。また、靴だけは保護者に購入してもらっている子どももいる。子どもの成長を理解してもらうとともに、「申しわけない」と思う気持ちを少しでも和らげるようにしている。季節の衣服の入れ替えは、職員が子どもと一緒にしている。アルバイト代から、好きな洋服を購入している高校生も多い。子どもたちの七五三は、着物などで正装して、お祝いしている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園には7つのホームがあり、それぞれ個室と二人部屋、キッチン、リビングがあり、6～7人の子どもが一緒に生活している。共有部分は、職員が定期的に掃除をしている。自分の部屋は個人で掃除し、インコを飼って世話をしたり、絵を貼ったり、ギターやぬいぐるみを所持して、自分の空間を確保して楽しんでいる。ホーム内のキッチンやリビングなども清潔に保たれている。園の周辺はミカン畑があり、海が見え、自然豊かな環境であり、園庭も草花が植えられ、きれいに整理されている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

子どもたちの日常の健康管理は、担当職員が行っている。子どもからは指が痛いなど、小さな身体面の訴えが多いが、身体面の不調よりも精神面での不調であることが多く、病院に連れて行った方がよいのか悩むことがある。現在、医療費は無料であるが、退園してからはお金が発生することを理解してもらう必要があり、判断に迷うことがある。子どもたちの健康診断は、学校の検診と、園が対応する検診の2回ある。現在、喘息とアレルギー疾患のため服薬している子どもがいる。薬は職員が管理して服薬している。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

学園の方針として、園全体での性教育カリキュラムは組んでいない。性暴力を受けて入園してきた子どもや、様々な経験をして入園してきた子どもが多い中、年代別、性別でまとめた性教育はできないと考えている。子ども一人ひとりがどんな経験をしてきたのか、職員はその辛さを受け止めながら、子ども一人ひとりに合った関わりを持ち、対応している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

感情が直接行動に現れてしまう子どもについては、各ホーム内で話し合い、子どもの気持ちを考えながら対応しているが、不適切な行動が出た場合は、毎朝の全体の申し送りで、昨日こういうことがあったと報告し、内容を共有している。子どもの不適応行動などについては、担当だけでなく主任や副主任が対応することもある。現在、大きな問題はないが、年長者が低学年の子どもを脅すなどがあった。不適応行動を取った子どもより、言われた子どもの方が、フォローが難しいと感じている。子どもは小さなことでカッとなることがあり、職員に対し暴力を振るうこともあった。学校の担任教師や児童相談所のケースワーカーなどと連携しながら、問題に対応できるようにしている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

現在、園内で子ども同士の大きないじめは見られないが、小さい子どもへの脅しのような場面が女子にみられる。子ども同士の関係性を把握し、職員間で状況を共有している。日々の生活の中や、子ども会議の中で、他者に対しての思いやりの気持ちを育むことができるよう支援している。障害のある子どもがいるが、子どもたちはその子どもの個性を受け止めているので、何かができなかったりしても、自然に手伝い、特にいじめなどは見られていない。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

臨床心理士が週2回来園して、子どもと面接している。ボールやごっこ遊びなどのおもちゃを使ったプレイルームや、箱庭療法のルーム、面接のルームを使い、それぞれの子どもにあった療法を行っている。入園2~3ヶ月後にバウムテスト(1本の実がなる木を書く心理検査)を実施し、子どもの様子を把握し、職員と連携しながら、支援内容を自立支援計画に反映している。男子高校生の中には、女性の心理士に話せないという子どももいて、その場合は男性職員が話を聴き、心理士につなげている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○

	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>
--	--	-----------------------

【コメント】

小学生から公文式学習を行い、各自毎日勉強している。学力の低い子どもや、障害のある子どもには、社会に出た時のために文字を読む、簡単な計算ができることを目標に、元特別支援学校の教員が学習ボランティアとして指導してくれている。発達障害のある子どもは、シールや分かりやすいドリルなどで学んでいる。高校受験のために塾に通っている子どももいる。自分の希望大学に入るために、中学校から計画を立て、今年度希望する大学に入学できた子どももいる。高校生の1人は、好きなダンスの習い事を入園時から継続して行っている。地域のサッカーやバレーボールなどに参加している子どももいる。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、障害児養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職業指導員が担当職員と一緒に、子どもの進路の話し合いを行っている。また、他の職員からも、いろいろな話を聴く機会を設けている。子どもたちには、奨学金制度のことなどの情報を伝え、進路を自分で決められるようにしている。希望の大学に行くため、高校を自分で選び、大学の推薦入学が決まった子どももいる。また、保育士を目指して、頑張っている子どももいる。子どもたちの資金面や精神面の不安を、できるだけ少なくするよう支援している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生は退園してからの自立した生活を考え、14人がアルバイトを行っている。アルバイトを行うことで社会性を養い、自分の適性を見つけ、自立に向けた体験をしている。アルバイトを時には忘れてしまい、遅刻したりする失敗もあるが、きちんと謝り、その後は気を付けて失敗なく継続している子どもがいる。退園後の就職先は、近隣の大きな市や親の近くに決めることが多いが、就職すると親がお金を無心に来ることもあり、職業指導員はそのようなことがないか気をつけながら、子どもとの連絡を絶やさないようにしている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員は、主任が兼務している。家族との関わりを大切にして、園の行事や学校の行事は、年度初めに保護者に知らせている。行事が近づくと担当から連絡を入れ、できるだけ参加をしてもらっている。また、面会や外出、宿泊など、児童相談所のケースワーカーと連携しながら関係づくりを行っている。外出した時などの話を子どもから聴いたり、精神面の様子をよく観察して、変化を見逃さないようにしている。3日間、里親をお願いしている子どもが2人いるが、里親と子どもとのマッチングが非常に難しいと感じている。どこまで子どもの情報を伝えたらいいのか、とても悩んでいる。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

精神的な面で疾患を抱える保護者が多く、家庭への復帰が難しい子どもが多い。子どもと保護者の気持ちが一致して、自宅での生活環境が整ったときが最良であるが、なかなかすべてが整うことは難しい現実がある。園での生活を通し、面会や外出などで親子関係を継続できるよう支援している。外泊を希望する時は、保護者にも子どもにも、家庭に戻るための外泊か、楽しみのためのものかをきちんと理解してもらうようにしている。子どもが期待を大きく持ち、家で受け入れができない場合には、子どもが更に傷つく場合があるため、慎重に対応している。園内の宿泊施設を利用してもらうこともある。